

令和5年度学校評価書

玉野市立荘内中学校

校長 住田 義 広

1 自己評価について

(1)自己評価方法

- ①学校評価アンケート(教職員:12月)実施
- ②学校評価アンケート(全校生徒:12月・全保護者:12月)実施
- ③学校評価集計結果への意見聴取(学校運営協議会委員2月)

(2)自己評価の項目

- ①確かな学力について(7項目)
- ②豊かな心について(7項目)
- ③基本的生活習慣について(12項目:うち3項目は教員のみ)
- ④信頼される学校づくりについて(7項目:うち1項目は保護者・生徒のみ、1項目は教員のみ、3項目は保護者・教員のみ)
- ⑤その他(3項目:教員のみ)

(3)自己評価結果(A, B, Cの3段階評価)

◆生徒・教員の評価は良好だが、保護者の評価は良いとはいえない項目がある。

① 確かな学力について(自己評価:B)

- 授業改善についてLDX推進事業を効果的に活用し、自由進度学習の導入等の協働的な学びの実現へと大きく動きはじめた。全教員の授業改革への意識は高まった。今後、授業の質の向上を図っていく必要がある。
- 生徒の自主的な学力向上プロジェクトチームを立ち上げ、自主学習ノートの充実や家庭学習時間の確保について取組を行うことができた。
- クロームブックの活用や先行学習を基盤とした協同学習のスタイルは定着しているが、先行学習課題の取組が生徒側に課題がある。
- 家庭学習の定着については大きな課題であり、自主学習ノートや学プロの充実と併せて、個別最適化課題、予習的課題・授業・復習課題の連携をテーマに研究する必要がある。
- 保護者に対する学習ログ等が示されていないため、学習の取組状況が見えにくくなっている。そのため保護者の理解が得られにくい。また、協働的なまなび自体、一斉指導のイメージを持つ保護者には受け入れられにくい。

② 豊かな心について(自己評価:A)

- 自走していく生徒として確実な成長は見えている。
- 校則改革を一層推進し、生徒の自律意識が高まった。端末使用ルールや自動販売機ルール等を生徒が作成し、生徒会の自治組織としての意識が高まった。また、ルールメイキングの実施等、新たな取組もはじまり、定着しつつある。
- 生徒が主体的にアイデアを提案し、実行する主体的活動が進んでいる。
- 読書活動については継続的な課題である。
- メディアコントロールについての生徒の意識には課題がある。

③ 基本的生活習慣について(自己評価:A)

- 全体的に生徒の規範意識は高く、前向きに生活している。
- 生徒のルールに対する意識が高まっている。
- 教職員の指導についての意識は高まっている。
- クロームブックの適切な使用について、一層指導を徹底する必要がある。
- 多くの生徒が参加できるボランティア活動を考案する必要がある。

④ 信頼される学校づくりについて(自己評価:A)

- 新聞掲載やHP、通信、メール等で広報を徹底し、比較的高い評価をいただいている。
- 情報化の推進により、家庭や地域の理解が追いついていないことには課題がある。

2 学校関係者評価について

(1)学校関係者評価者名

西宇可奈子	荘内地区主任児童委員
相賀 一夫	玉野警察署管内少年警察協助手
片山 典子	片山産婦人科医師
古市智恵美	荘内サッカー少年団コーチ
村上 浩司	一般社団法人
栗原 明美	槌ヶ原ちどり保育園園長
藤本 実穂	荘内南幼稚園園長
小原小百合	荘内小学校校長
住田 義広	荘内中学校校長
板崎 彰	学識経験者：元中学校長
高尾 幸枝	荘内小 P T A 保護者代表
小野 寛子	荘内中 P T A 保護者代表
大賀 易	荘内公民館館長
入口 大志	玉野市教育委員会学校教育課

(2)学校関係者評価方法

- ・学校運営協議会で評価結果を説明。小・中学校の学校アンケート集計結果を配布し、評価・意見を回答していただいた。

(3)学校関係者評価結果(A, B, Cの3段階評価)

①確かな学力(総合評価A)

- ・生徒の多くは新しい学びのかたちに興味を持ち、積極的に取り組んでいるように思われる。タブレット学習について、もっと保護者に理解してもらうように働きかけが必要である。
- ・先生と生徒の温度差がなく、先生が伴走者としての役割を果たしているのと感じる。
- ・クロームブックでの学習でも紙での学習でもどちらも同じ心配は出るものだと思う。
- ・今の時代に沿った学習方法を先進的に取り入れ、生徒が生き生きと学んでいるように思う。
- ・保護者の求めているものが高すぎるのかなと客観的に見ると思う。千差万別の中ですべてをクリアするのは無理だと思う。
- ・保護者の方の評価だけが低いのが気になるが、教員と生徒の評価が良いので問題ないと思う。保護者に授業をもっと見てもらうべき。
- ・自主学習を身につけることの難しさを感じる。学習についていけない生徒のサポートをしてほしい。

②豊かな心(総合評価A)

- ・達成感を味わえる行事、体験活動を取り入れた福祉に力を入れてほしい。コミュニケーション能力が大事である。
- ・TPO をわきまえた行動についての教員の評価が低いのが気になった。
- ・気持ち良いあいさつができています。園児の憧れの存在となった。
- ・あいさつ運動や校外での活動に積極的に参加してくれる生徒が多く、豊かな心が育っていると感じる。
- ・保護者も子どもの心の成長の部分は高く評価している。
- ・生き生きと活動する生徒の姿から、生徒・保護者とも満足感が伝わる。
- ・やりたいといえる環境が良い。リーダーシップとフォロワーシップを大事にしてほしい。

③基本的生活習慣(生活全般)(総合評価A)

- ・校則から心得になったからこそその身だしなみ等への取組を今後楽しみにしている。
- 自分たちの作り上げたルールの中で、自他ともに認められる生活を送ることは、大人でも大変なことだと思うので、時間をかけてゆっくり育ててほしい。
- ・教員が楽しく充実した学校生活を実現しようとしてることが感じられた。
 - ・メディアコントロール等について、生徒や保護者の評価が低いのは現代社会では仕方ない。
 - ・自分たちでルールを決め、自由の中にも秩序があり、見ていて清々しいです。
 - ・先生たちの評価が全体的に高いので、生徒たちの日常の生活習慣は良いのと感じた。

- ・生徒たちに睡眠のメリットを知ってもらうことが重要かと思った。
 - ・高校受験のためにボランティア活動をしている生徒がいるので、このあたりの教育が必要だ。
- ④信頼される学校づくり(総合評価A)
- ・各種通信をHPで見られるのは良い。
 - ・保護者が学校に期待する部分は大きいと感じる。
 - ・先生方の対応が事務的でなく心が通っているようにいつも感じる。
 - ・常に情報発信している。地域と生徒の意見交換の場も作っていることに感謝している。
 - ・最近是不適切という言葉が多く出てくるようになり、保育現場でもどう対応するかは悩みの種である。厳しく温かい指導の大切さを感じる。
 - ・学校の取組、生徒や教職員の頑張りを玉野市のパイロットとしてもっと発信してほしい。
 - ・地域に開かれた学校として、様々な地域の方と繋がろうとしたり、授業に入ってもらったりと素晴らしいと思う。親や先生以外と出会うことが大切だ。教員もそれぞれのプロにお願いしていくことも働き方を見直すきっかけになるのではないかなと思う。

3 来年度の重点取組(学校評価を踏まえた今後の方向性)

- ◆全教育課程を通じて、自走する学習者、自走する教育活動を目指していく。
小中で「児童生徒を主役にした学校づくり」を協働で進める。
- 全教職員で「未来の学校づくり」に取り組み、「令和の日本型教育」の実現を目指す。
 - 1 「荘内中版:学びスタイル」(先行学習を基盤とした協働的な学び)による確かな学力の育成
教育DXを推進し、これからの学びスタイルを実現
2 ヶ月サイクル学習や週課題等を徹底し、得点力も引き上げていく。
 - 2 生徒主体の学校づくり
 - (1)開発的な生徒指導の推進(PBIS:ポジティブな行動的介入と支援)
 - (2)生徒が主体的に企画運営する活動を充実
 - 3 中学校区一貫教育の推進
 - 4 「みんなの学校」を実現(思いやりの心を育み共生社会の実現を目指す人間の育成)
 - 5 教職員の資質能力の向上・働き方改革の推進
教育DXを推進し、これからの働き方スタイルを実現
- 地域共育目標「周囲に愛されながらチャレンジし続ける子どもの育成」を目指す具体的な地域との連携を考えていきたい。